

ぼうさいこくたい 2025 in 新潟での防災・減災ワークショップ（2025/9/7）

テーマ：防災教育，防災・減災スタンプラリー

会場：朱鷺メッセ

URL： <https://bosai-kokutai.jp/2025/W-07/>

令和7年9月6日（土）・7日（日）、新潟県の朱鷺メッセで「ぼうさいこくたい2025」が開催されました。当研究所からは、減災教育「結」プロジェクトとして、地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門のメンバーが中心となり、「授業で学んで防災・減災スタンプラリーで体験！さいごは津波はかせに質問だ」と題したワークショップを出展しました。

「ぼうさいこくたい」は、市民から自治体・企業・防災の専門家まで、子どもから大人まで誰もが無料で参加できる日本最大級の防災イベントです。記念すべき第10回となる本年は、「語り合い・支え合い～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～」をテーマに実施されました。また、愛子内親王殿下のご来場もあり、会場は多くの来場者で賑わい、高い注目を集めました。

ワークショップでは、武田真一学術研究員（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）の司会進行のもと、まず保田真理プロジェクト講師（同寄附研究部門）が、「結」プロジェクトのオリジナル防災アニメを上映し、災害時の適切な行動を分かりやすく伝えました。続くミニセミナーでは、協力団体である東京海上日動から本学卒業生の平野井シニアアソシエイトが登壇し、令和6年1月に発生した「能登半島地震」を事例に、被災者の生活再建における保険の役割を解説しました。その後、保田プロジェクト講師の進行で、会場内に設置された6つのポイントを巡るクイズ形式のスタンプラリーを実施し、参加者が能動的に防災知識を深める機会を提供しました。プログラムの最後は「津波はかせの質問コーナー」としてアナワット・サッパシー准教授（同寄附研究部門／津波工学研究分野）が登壇し、津波に関する現象や過去の事例、予測について解説しながら、参加者からの素朴な疑問に直接答え、科学的知見に基づく防災意識の向上を図りました。

会場には多くの親子連れや防災関係者が訪れ、体験型コンテンツに積極的に参加する姿が見られました。特に、専門家と直接対話できる質問コーナーや最新の災害事例を取り上げたセミナーは高い関心を集め、産学連携による多角的な減災教育の有効性を示す貴重な機会となりました。当日のワークショップは定員を超える50名以上が参加し、参加者には防災グッズを紹介するクリアファイル、当研究所の広報誌、記念グッズ、携帯簡易トイレなどを配布し、盛況のうちに終了しました。



スタンプラリーの様子



津波の性質を分かりやすく解説をする
アナワット准教授